STATEMENT

『人新世』に吹く風

地理学、人類学、社会学、歴史学といった多面的な観点から見ても、あるいはその土地から立ち上がった文化を眺めてみても、
神戸は風が通り抜ける街なのではないか。

様々な風が吹き抜けるからこそ、それが神戸という場所の多様性を生み出している、と考えることもできるかもしれない。

現在に吹く風を受けて、コロナ禍を経た私たちはどのように互いに触れ合い、自分たちを取り巻く世界と新たな関係を構築していくのか。

今や私たちが立つ土壌には人工物が含まれていない場所はどこにもないとされる地質時代「人新世」。

そんな時代において、自然物と人工物の境界線は一体どこにあるのか。

造形物、建造物、さらには都市構造に至るまで、これらを人新世における「地層の一部」と捉えるのならば、
山や川や海と戯れることと、都市や建築物や廃棄物と戯れることとの明確な違いはもはや存在しない時代が到来しているのかもしれない。

少子高齢化の現在、全国的なトピックとなっている「空き家／廃墟」を現代の遺跡であり、かつ自然物としての地層の一部とみなし、
それらをも内包した「神戸という器」に吹き抜ける風に誘（いざな）われるノマドとして、
同時代を生きる私たち人類が生み出すゆるやかな繋がりを慈しみたい。

風を集めよう。

Project curator 森山未來